

さくやうかんの頭蓋にして、將來の進歩の上より育ふとき、反つて頗る有効的餘地を存するものと謂ふべきなり。是を以て審査の如きは、高度の標準に據り、細緻の項目に照し、嚴密公正、敢て假借する所なからしめたり。

今各類の出品に就き概評を下さん。第一部分植物標本は、出品點數尤も多く、比較的見るところの多いと雖し、概ね類目を示すに止まり、其科屬種別及學名の觀察に至りては、實平治が數あるに足らず、甚々數目を區分せるものゝ難し、また多少の誤脱なきことあらす。

害蟲標本は、各蟲の過度經過に勿論、被寄作物、寄生蟲、敵菌等を添加せしもの極めて少なく、或は二三の蝶類を排列して、徒らに其名稱を冠せしもの多し、以て其不完備の一端を窺知すべし。

益蟲標本は、之を害蟲標本に比較して點數少なし、而して其優劣に至りては、致て鮮明なるを見す。

教育用標本は、學科程度に別はざるもの多し、是亦完全の域を距るゝと尙遠の感あり。

裝飾用標本は、點數特に多く、且百事細心以て製作せられたるやの痕跡を留む。往々巨大美麗のものもあるが爲に、頗る人目を惹くに足れり難い。此蟲を裝飾の用に供するは、實る技術に屬し、好事に走りて實用を缺くの嫌なきにあらず。將來注意わらんとしたる。而して其製作保存及排列の試験に於ては、奇巧のもの無かりしゝあらざるゝ要するに未だ實に大成の域に入り難し。北他、保存箱の不完全、蟲類の空乏及製作の不良より、蟲体の缺損せしもの多からず。就中排列に至りては、好意却て專門に至り、學術上の本旨を誤れるもの少からず、是れ最も警戒を加へよ一要項なりと信す。但小學校生徒の製作品に至りては、其製作及學術上の評價は、暫くを指す。斯學普及の點に於て、洵に極ふべき現象なりとす。

第二部臘標、製作用の器具機械及器具等に至りては、出品點數少く、又或は過半の觀者があるもの多からず、是れ頗る遺憾とす。然れども、進歩の端緒を示せるもの亦少しあす。益々當業者の奮起を望む。

今全般を通観するに、本會に出陳せし所のもの、皆未だ幼稚の域を脱せずと雖、其種類の豊富なる、益し斯學研究上裨益する所、偉大なるべしと信す。

上述の如く、出品の種類頗る多く、且加ふるに範囲亦盛大なるを以て、之が優劣を判定するに益し至難に屬す。幸に審査委員諸氏が夙夜精勤の功に依り、判定の日子間に審査を完了し、優等者六十九名を授賞して、既に總裁閣下の裁可を経たり。爰に審査の概要を述べ、併て褒賞の授與を申請す。

明治三十四年五月十二日 第一回全國昆蟲展覽會審査長 農商務省農業試驗場技師正七位 小貢信太郎

依りて總裁代理は、左の式辭を朗讀の後、審査事務委員長の讀上げたる別項列記の授賞者に對し、一等賞より、順次賞狀を各別に之を授與し、四等賞狀は一括して其總代に交付し。

第一回全國昆蟲展覽會出品の審査終了を告げ、木日を以て總裁授典の典を行ふ。性ふに昆蟲學のものたる、之を立國の本源たる農桑業に施せば、以て民生を利すべく、之を科學の上より研究すれば、以て經濟發展の利に資すべきの必要ありと雖も、現時本邦に於ける斯學の狀態は、尙ほ未だ幼稚の範圍を脱せざるが故に、之を今回の出品に於けるも、北製作、陳列、應用の諸點より分布區域、種類調查の事項に至るまで、共に十分を得たりと謂ふ能はず、是れ余が聊が遺憾とする所なり。

然れども、諸子既に東西未だ曾て前例なき此事業を發達し、爰に斯學の基礎を作爲せり。今後益々協力研究、各々其志をす所に從ひて、一意その振興に精勤せば、邦家の慶福を増進し、併て斯學の大成を期するに難りむべし。諸君よしむを勉めよ。

明治三十四年五月十二日 第一回全國昆蟲展覽會總裁 正三級勳一等男爵 花房義質

右終りて表葉ある。次に田中會長より左の如く、功勞賞及び追賞授與の裏請あり。

第一回全國昆蟲展覽會兩部の出品中、北優良に仕するものには、既に審査員諸氏の精檢審議を經て、審査員の決裁中告に依り、各々褒賞を授與せられたりと雖も、尚ほ他に會則第十一條に該當すべき者あるを以て、明治以降昆蟲學に著述し、功勞最著者を恩賞すべき者五名を推薦し、是亦同しく總裁閣下の裁可を得たり。

顧ふに、此等功勞者中には、其職責に對する功課を加算せしもの無きにあらざり。出來、本邦に於ける昆蟲學に、其前輩を明治の初年に發現せしを以て、此開始の時代に遡り、能く農桑業の有効性を證明して經濟民の策を講し、能く新學の啓發扶植に

始めて今日の境域に達せしめたる功績は、強ちに之を職務の有無にのみ論するゝ能はざるものならず、當年示導實行の述を追憶すれば、其酸辛決して今日の比にあらざるを知る、乃ち此等諸氏の熱誠忠實は、大に之を顕彰すべき價值ありと定し、先づ之を本會審賞員に詰ひ、次て評議員の内議に付り、各々其同意を得たるを以て、爰に功勞賞及追賞を擬せり、希くは贈賞あるべしと定し、謹んで褒賞す。

明治三十四年五月十二日

全國昆蟲展覽會長(第三位勳二等)田中芳男

是よ於て事務委員長は受賞者と呼上げ、受賞者の總裁の面前より進むと俟ちて、會長は一々功勞賞若くは追賞の薦告文を朗讀し、總裁は順次これより賞狀及び賞品を授與せり。即は下より特費するが如し。

東京府 鳴門義民氏

夙に、昆蟲學を攻究し、明治十年以降、率先農作害蟲驅除の衝に當り、遂に蚊蟲驅防法を案出して之が實施より盡瘁し、又公務の餘暇、害蟲書を編述して、斯學の鼓吹啓導に從事する等、功勞妙ながらす、仍て本會規則第十一條に據り、功勞賞を贈與し、茲に其名譽を表彰す。

東京府 正六位勳六等 練木喜三氏

夙に、應用昆蟲學を修め、特よ應用昆蟲學の伸暢を期し、明治十年以降、専ら意を農作害蟲の駆防より注ぎ、後進の啓誘に努り、農家の示導より任し、又公務の餘暇、各種の害蟲圖解を編述して、斯學思想の普及を圖る等、功勞妙ながらす、仍て本會規則第十一條に據り、功勞賞を贈與し、茲に其名譽を表彰す。

佐賀縣 正七位 小野孫三郎氏

夙に、應用昆蟲學を修め、明治十三年以來、各地に發生せる飛蝗及果樹害蟲等の駆防より抜擢挾掌し又公務の餘暇、重要植物害蟲新說を開版して、農家の顯示啓導より資する等、功勞妙ながらす、仍て本會規則第十一條に據り、功勞賞を贈與し、茲に其名譽を表彰す。

愛知縣 岡田虎二郎氏

夙に、農作害蟲駆除の急務に附すべからざると唱道し、屢次、各地に歷巡して深く警戒を加へ、後又蠶卵塊摘採法を案出して、農事上より利便を與へたる等、功勞妙ながらす、仍て本會規則第十一條に據り、功勞賞を贈與し、茲に其名譽を表彰す。

長野縣 (故) 清水三男熊氏

夙に、本邦農作の蟲害より罹るものあらと憂ひ、昆蟲學を修めて、利世安民の途を講し、又蠶蛆の爲めに、逐年蠶業の衰退するを慨き、遂よ蠶蛆乘收の便法を案出する等、功勞妙ながらす、仍て本會規則第十一條に據り、功勞賞を贈與し、茲に其名譽を表彰す。

次に、岐阜縣農會長川路利恭氏の祝詞(副會長野呂駿三氏代讀)あり、左の如し。

第一回全國昆蟲展覽會は、今や其出品の審査を畢り、茲に本日を以て、獎賞授與の式を舉行せらる。堂大れ祝意を表せざるだけんや。頗るに國力の充實を謀らんと欲せば、生産物の發達を努めざるべきず、而して害蟲の駆除防護、害蟲の保護繁殖とは、農作物の發達上、利害の關係はる所頗る大なり、若し其措置宜しきを得ずして、一朝蟲害に罹らんか、忽ち巨萬の財を失ふの虞あり、故に昆蟲の研究は、農作物の増進を圖る上に於て、一日も怠にすべからず。是を以て、名和昆蟲研究所主催となり、第一回、

全國昆蟲展覽會開設せられたるは、斯業に裨益する、いかなからざるを信ず、是實に國家の慶事にして、抑亦本會の爲めに深く喜び所なり。聊一言を陳べて祝辭シテ。

明治三十四年五月十二日

岐阜縣農會長 川路利恭

次に、濃飛日報主筆原真澄氏の祝辭あり。各地より寄來れる祝文祝電の披瀝あり。次々授賞者總代の答辭ありしが左の如し。

爰に木口を以て、第一回全國昆蟲展覽會獎賞授與式を舉行せらるゝに當り、朝野賢達の來臨を辱ふし、特に邊境明下の高論を賜はる、某等の光榮何ものかに過ぎん。夫れ本會は名相昆蟲研究所の獨力經營に成り、名は則ち私立と云ふと雖も、事は則ち國家的に屬し、且加ふるに東西未だ其類例なきの壯舉に屬するを以て、之が設置の困難、固より他の社會と同じからざるものあり而して今や此盛會を見る所以のものは、獨創總裁、會長兩閣下を始め、本會の機務に參與せる諸彦の賜教諭策、其宣しきを得たるの外に歸せん人ばめらず。だ、某等の斯學に冷漠なる、未だ優良の成績を出現し、以て國家の萬一を轉補するに至らざるを愧づるのみ。某等今日を以て足りりせず、鑑斯學の爲に微力を致し、敢て閣下の懇詞に副はんことを期すべし。謹て答辭を呈す。

明治三十四年五月十二日

第一回全國昆蟲展覽會受賞者總代 岐阜縣振興部昆蟲研究會

農商務省農事試驗場 中川久知	山梨縣甲府市 山梨昆蟲研究會	宮城縣名取郡 名取昆蟲研究會
岐阜縣大垣町 金森吉次郎	島根縣松江市	富士縣仙臺市 小山内孝九郎
東京府東京市 池田雄藏	山梨縣東八代郡 八田達也	山形縣鮭淵郡松崎町 齊藤朝之助
大分縣下毛郡四谷村 白木一策	青森縣青森市 柏原彦太郎	鳥取縣岩美郡中郷村 岩船松太郎
千葉縣安房郡鷺川 腹越山松	京都府船井郡上和知 野間貞三郎	石川縣石川郡安原村 高多信久
	兵庫縣農事試驗場 小野彌三郎	京都府船井郡 雜誌同業組合

此日式場に列席せしは、東海農區聯合縣の各高等官、國會議員、農商務省高等官、東海農區聯合物產



第一回全國昆蟲展覽會受賞者總代 岐阜縣振興部昆蟲研究會  
者賞受賞者總代 木練喜三君

此進會の審査長及び審査官、官縣立學校職員、縣會議員、新聞記者、縣農會役員、各農事試驗場技師、地方有力者、本會役員、出品人及び受賞者等ありしかば、無算二百數十名に上り、私會としては、最も盛大に嚴肅なりしが、午後二時半を以て、全たく式を終了し、廟院たる奏樂を以て隨意散會を報じ、來賓に對しては、

茶菓の饗應、紀念品の贈呈等あり。

○壹等賞（銀杯壹個） 試名

分類標本 同 上	岐阜縣 振興部昆蟲研究會	三重縣 阿山郡農會
分類標本 同 上	岐阜縣 振興部昆蟲研究會	岐阜縣 稲葉郡昆蟲研究會
○貳等賞（木杯壹組） 拾名	岐阜縣 可兒郡害蟲防治監督修業生	岐阜縣 羽島郡農會
分類標本 同 上	岐阜縣 海津郡昆蟲研究會	岐阜縣 水呂郡昆蟲研究會第六部落
教育用標本 同 上	岐阜縣 水呂郡昆蟲研究會	

全國昆蟲展覽會出品目錄附錄 第六 獎賞授與式の舉行



## ○授賞等級別表

類別	一等	二等	三等	四等	計
分類標本	一	一	三	一〇	三二
害蟲標本	一	二	二	一	六八
益蟲標本	一	一	一	一	三
教育用標本	一	一	一	一	三
裝飾用標本	一	一	一	一	三
器械	一	一	一	一	三
冬季採集品	一	一	一	一	三
合計	一	一	一	一	三
時	一〇	一一	一二	一四	四九

## 第七 閉會式と会場の閉鎖

豪賞授與式舉行後の第三日より當る五月十五日は、實よりこれ本會の最終を宣告して、長へに昆蟲學史上  
より特書せらるべき紀念にありしかば、乃は午後三時を以て、閉會の式典と岐阜縣會議事堂に舉げ  
る。參集の人員こそ少なけれ、うが大體は、閉會式の順序の如くにて、奏樂を以て開閉を報すること  
になしたるが、同じ四時には全たく散會を告げたる。其次第を摘記すれば、劈頭に笠井事務委員長  
の閉會申請書の朗讀あり、其辭にははく。

全國昆蟲展覽會に、名和昆蟲研究所の經營を以て、之を斯學思想の幼稚なる本邦に開拓せしものなるが故に、其施設齊整を缺  
き、北規模壯宏を極めずと雖も、而も時の今古を問はず、海の内外を通じ、米か前例なきの企画に出て、其出資總額は六百七  
十三個、昆蟲標本は十六萬に餘り、更に他に參考品として、斯學に關係を有するもの幾千點の多きを算し、豪賞授與の榮を膺  
する者六十九人に及へり。而して總幹事官は、遠かに五層の上に處し、中に優待者八十八人、特待者九百三十人、小學生徒約  
一萬餘の觀察あり。特に注目すべきは、北海道、琉球、臺灣及海外よりの來觀者また少なからざりし一事也。是に因りて之を  
観れば、既往三回の會期間に、其世を利し、人を益せる功は、決して渺少にあらざるを知るなり、並し本會開設の目的を貫通  
するに殆どらん歟。爰に經過の梗概を陳述し、併せて閉會の式を舉けられんことを申請す。

明治三十四年五月十五日

全國昆蟲展覽會事務委員長從六位 築井 信一

右の申請に對して、田中會長は、徐ろに左の閉會式辭を朗讀せられ。

木會開會以來、尙に失態過失なく、本日を以て閉會式を舉ぐるに至れるは、一に各員利害督勵の功を謂はざる可らず。是れ余が  
特に悦ぶ所なり。惟ふに、本會の冥々漠々に科學實業兩者を融和し、國利民福を圖れるの成績に至りては、未だ遠かに之を知るに  
由なきし、其從來之を輕視せる者を警醒して、昆蟲と國家の關係を悟らしめ、又上下の注意を惹起して、斯學研究の必要を感ぜ  
しめたる結果、近き將來に一生面を聞くべき大火線となりしは、余を斷して疑はざる所なり。而して此間に立て、之を發展應用  
を謀究し、本會開設の目的を成就せしむる者は、それ體に出品人諸氏の責務なるべし。茲に閉會を命するに臨み、所見を陳べて  
式辭を終す。

明治三十四年五月十五日

全國昆蟲展覽會會長從三位勳二等 田 中 芳 男

次に、川路岐阜縣知事並びに岐阜日々新聞社員仙石保吉氏の祝詞演説あり。次は、出品人總代は下の  
如き答辭あり。

蓋に、第一回全國昆蟲展覽會を圓滿無事の間に經過し、光輝ある閉會式を舉行するに際り、朝野輿論の盛況を擧ふし、且つ優渥  
なる訓諭を賜はる、感謝何を堪へん。而て接ふに、近來昆蟲學の發達頗る高まりしより、或は之を學術的に、或は之を經濟的に、

販売する者、著しく増加したりと雖も、惜むらくに、之が進歩を測度すべき試金石ばかりしに、名利昆蟲研究所の首唱努力により、今回の盛舉を見るに至れるは、不肖秋二等の達さに國家の為に慶賀する所なり。終りに、本會を吾が岐阜縣に開催せられたるに、秋二等の榮譽とする所にして、また當局諸君の日々会務に奔走せられたるの功勞は、特に感謝已まざる所なり。今や此盛典に列し、表良に代り、謹言を陳へて答辭となす。

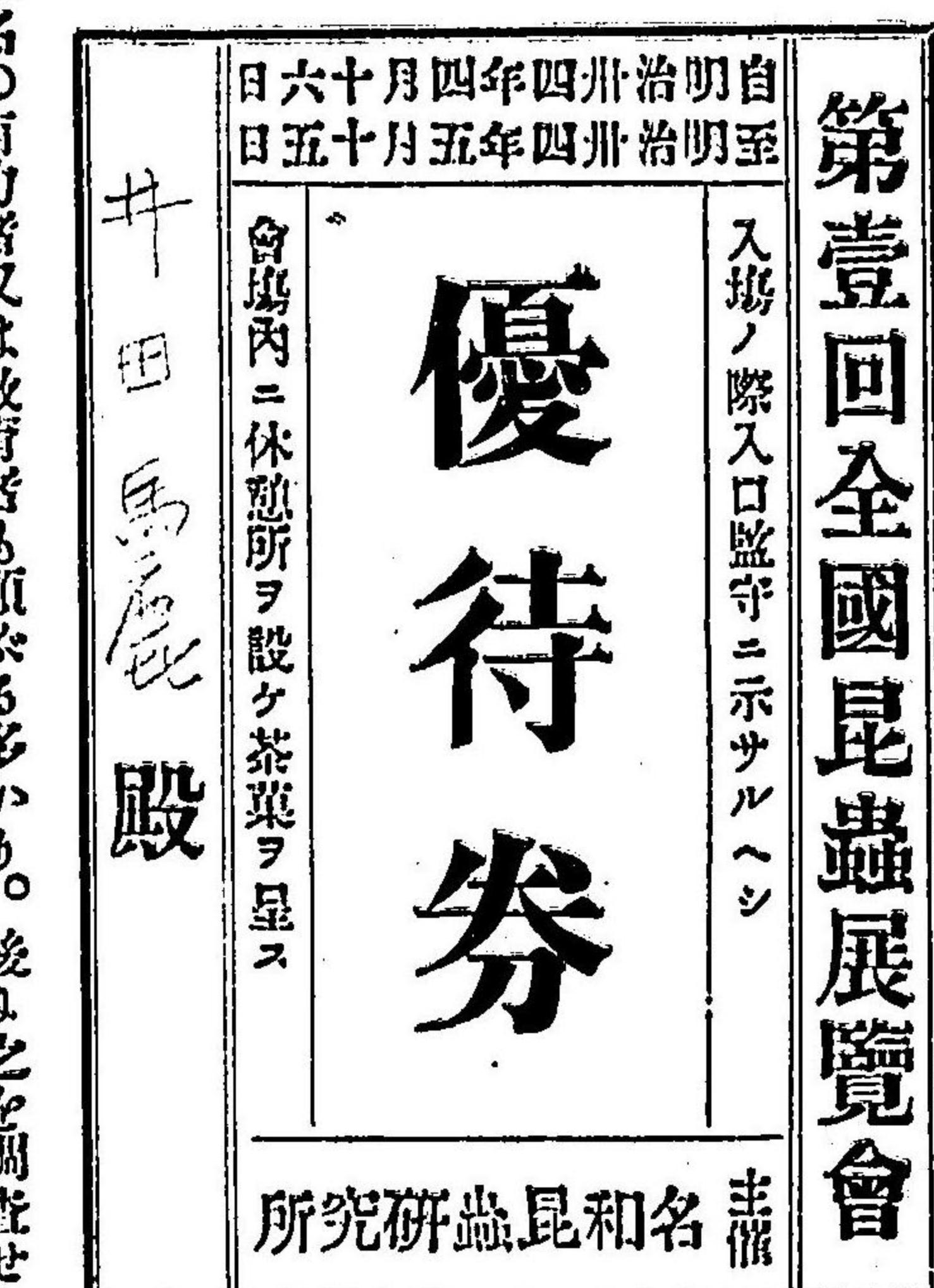
明治三十四年五月十五日

出品人總代の答辭を以て式を畢へ、參列員一同を別席より請じて茶菓の饗應ありしが、その評議員、事務委員諸氏が、始終斡旋の勞に當られし事は、肯て前回と異なる事あからず。

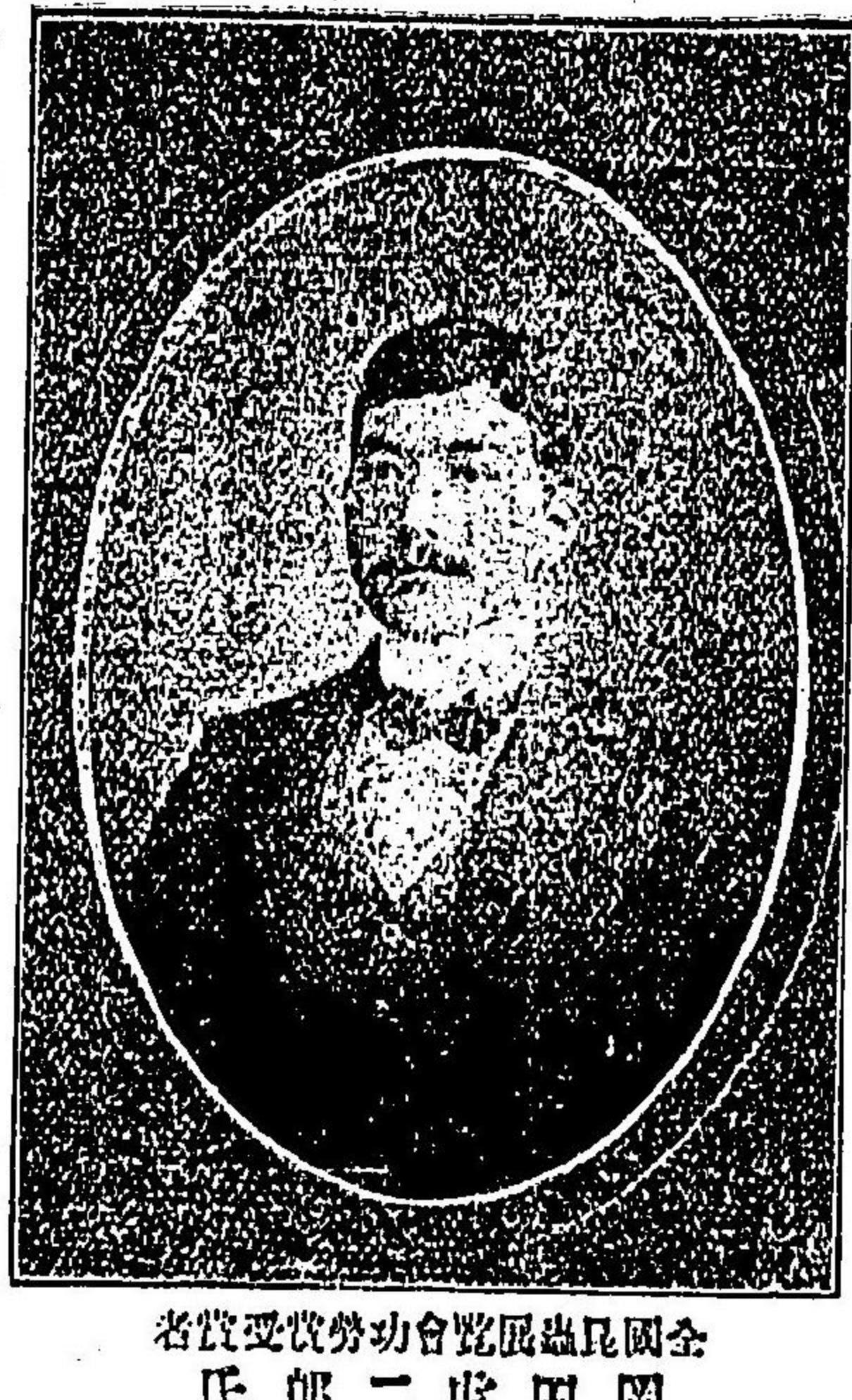
### 第八 昆蟲展覽會開場中の雜件

全國昆蟲展覽會三旬の開期は、決して短しと云ふ可べかず、宜矣、此間に起れる雜事要件また一にして足らざるや。今其中より就きて、數者を摘錄せん。〔第一〕徽章は之を總裁、會長、顧問、評議員事務委員、審査委員、普通用等の數種に區別し、岐阜縣立岐阜陶器學校にて製作の彩色焼附岐阜蝶に紫白赤紅黃色の飾房を垂下せしものを用ひたるが、外に新聞記者用としては、結蝶に網房を附したる者をも調製しむ。〔第二〕通券は優待、特待、通常及學生用の四種となし、通常券のみと規則によりて發售する事としたるも、休日と學生とは其價を半減して成るべく觀覧の便を與へき。〔第三〕開會前にも、各地の有志より金品を寄贈(機關雜誌「昆蟲世界」第五卷參看)する者ありしが、なほ開會中には

岐阜縣大垣町西濃印刷株式會社、岐阜市  
濃陽館及び蟲屋旅店等は、煙火、音樂隊  
及び紅燈等を寄附し、岐阜市泉善七氏は  
蚤の摸型の製作に從事して、頗る苦心  
する所あり。田中會長は、都合三ヶ月間  
堪能の事務員一名を選擇して、本會に附  
屬せしめられぬ。うの厚意共よ多とすべ  
し。(第四)來觀人中、學者として當世に  
推重せらるゝ人士の多かりしは、本會の



最も榮譽とする所なりしが、また各地知名の有力者又は教育者も頗る多かり。後より之を調査せし  
よ北海道より臺灣島に至るまで、會場の蝶門を出入せる府縣としては、一もこれ無からず。特に真宗本  
派の連枝と臺灣人十數名の一行とは、最とも人目を惹き、米國の昆蟲學者博士マーラット氏夫妻の參  
觀は、斯學上一方ならぬ利益と與へしやう覺へたり。(第五)各地の昆蟲研究會より、代表者として特  
更より派遣せしも多かりし中、東北、北陸地方など遠地の人士のあるのみか、京都府、大坂府外二三縣  
の農業學校より、修學旅行をして其職員と數の學生などを遣はしづ。去れば、岐阜管内の諸學生の



全国昆蟲展覽會  
田虎二功勞賞受者  
氏

多かりしは言はずもがな、農家の婦女すら、日々數百名の入場と聞へし。(第六)五月十一日には昆蟲學會組織の評議からしも協議の結果之を撤回し、更に岐阜縣會議事堂に昆蟲講話會を開きしに、川路岐阜縣知事以下數十名の參會者ありて、本會審査長たる小貫信太郎、千葉縣より來會の老農大竹義道外敷氏の講演あり、散會後濃陽館に大懇親會を開き、田中會長をも招待しき。  
此際岐阜縣害蟲驅除講習修業生の盡力最も名かりし。(第七)東洋に於ける貝殻蟲の敵蟲調査として、來岐せるマーラット博士夫妻優待のため、これを本會顧問の格に准じ、且名和昆蟲研究所より招待して水琴樓に晩餐の饗となせり。時に其席よりありしは、博士と同行の農事試驗場技師堀健氏並びに審査委員五名と所員五名となりしが、四月廿七日には、岐阜中學校の講堂を借りて一場の講話をもむひき。(第八)昆蟲展覽會は、東海農區五縣聯合物產共進會と其始終を一にせしかば、參觀者は彼此兼覽の便宜少なからざりしと云ふ。又この兩會の開始を機として、全國教育品、岐阜

縣畜產、日本繪畫の三共進會より、敷縣聯合の菓子、岐阜縣相樂綫の二品評會とも開設せしが、なほ外に各種の會合は、凡そ十餘より下らざりきとあり。(第九)毎年四月より五月にかけ、岐阜市の雨量は著しく増加し、時々強風の吹荒むことあるに、開會中は、幸ひに異常の變調を見るに至らずして已みき。想ふに、本會に五萬有餘の入場者あるを致せしは、またこの天候の良順なるよも因りしある可し。(第十)展覽會總費額は初め千八百餘圓の豫算を編製し、其中、主催者よりは千圓を出し、他は有志の義金及び入場券料を以て補充するの内議なりしも、幸ひに岐阜縣費より五百圓の補助交附ありしより、こゝに會務の擴張を行なし、豪賞費の三百圓を増して四百五拾餘圓となし、又陳列費、裝飾費、監守費等にも應分の増額を加ひ、先づは事なく終結を告げぬ。而して入場料も豫定に比較し著しく増加せしを以て、これをば、來賓其他一般への紀念品費及び役員の慰勞費等に充てき。然れば、收入の増加により、支出の途また膨脹を來たし、結局、新舊相異ある所無きよ至れり。但し之がため、外に對つては、聊さか體面を維持する事を得、内よりては、臨時の費途よ苦難を感せざりしは、また論なきあり。(第十一)本會に關する一切の費用は、決算を俟ちて之を公示せんとは、主催名和昆蟲研究所の素慢なりしに、其後、殘務處分會議に於て、強めてこれを爲すの要あし、假し決算せんよも實處のそれと異あり、在來物品の使用、設備品の費額より、炭油紙筆の消耗品費の如きに至りては、到底其全額を積算すること能はざるのみか、通信費、人夫賃また之を詳記するに苦しむものあからん。

而かも共同事業の性質ありせば、或ひは之を公示するの義務ある可かる。純乎たる私立會よりては必ずや之があらる可からざる事由あるを知らず」との説より歸着せしを以て、茲に細記を省略す。(第十一)來賓及び役員への紀念品として、褒賞授與式の時一般より配分せしは、岐阜縣西濃地方の特産たる杞柳の手籠に、東濃より鐵製の麥稈昆蟲を附し、中よりは岐阜市製出の金華山燒の花瓶を拂み、又昆蟲形の菓子折と昆蟲摺込の白布より包みたるもの等なかりしが、外に普通の來賓用としての菓子は、蝶附の落雁及び煎餅、信州産のザザムシ、九州産の稻螽の儀助表にて、臨時の紀念品には、岐阜蝶模様の酒盃、急須、煎茶碗、桑天牛の文鏡等なり。〔第十二〕褒賞授與式後よりは、田中會長主人役をもつて、會の権務に與かれる役員、審査事務に執掌せる諸氏、庶務より從事せる諸員を、各別に濃陽館より招待して、晚餐會に其辛勞を慰め、後また考課に應じて銀杯、木杯、報酬其他紀念品を贈呈し、又主催名和昆蟲研究所は、臨時雇傭の監守其他より、酒肴、賞金等を分與しき。(第十四)入券料を低うする時は、會場内自づかず紛擾して、斯學研究者の不利に歸すべしとの、田中會長の意見により、規則更正の際には之を倍價となしたるも、猶ほ意料外の群衆を見、ためよ究明を擅まることを得ぬる熱心家の多からしは、本會に於ける最上の遺憾として記憶すべき一大要件たり。然しあがら、この群衆廻至の裏に、新たに斯學上の智識を得たる者も多かる可ければ、専攻者の失望落胆は、化して苦及の基因とならしやも、得て測かり知る可からず。(第十五)賞狀と賞品の意匠圖案等は關しては、人

## 第一回全國昆蟲展覽會褒賞之證



何標本

何府縣何都市

名

右審査ノ成績ニ依リ之ヲ授與バ

年月日

審賞員 業務農業試驗場技師正七佐小貢信太郎  
會長 徒三世助一等 田中芳男  
總裁 正三位勳一等男爵 花房義質

知れず苦心せしもの多からしが、遂に賞狀の大なる  
縦を尺二寸、闊を尺八寸とし、其地質をば淡碧色と  
して中より名和昆蟲研究所主催の九字と於岐阜市の四  
字を、小篆もて横に白く現はし、中央の上部に金色  
の岐阜蝶を彫りたる末、式の如き文字を墨書きするこ  
となし、又一等の銀杯とは、内より一等賞の三字及  
び岐阜蝶を細刻し、外より明治三十四年五月、名和昆  
蟲研究所主催、第一回全國昆蟲展覽會の二十七字を  
篆體にて彫刻せしめ、一等賞二等賞の木杯も之より準  
ずと雖も、青漆の細辛を添加することを許し、總  
て之を愛知縣名古屋市にて調製し。

## 第九 閉場後に於ける蟲種の調査

閉場式執行の次日よりは、全たく會場を閉鎖して、公衆の観覽を謝絶したるも、その學術攻究の目的に出づる者、若くは遠路來訪の者に對つては、特より三日間の猶豫期を與へ、此旨を掲示して隨處内附



	個數	個點數	個數	個數	個數										
計	三六〇	二七	一一二	一〇九	一五	一七	一〇九	四六	一三	一二八	一四	九	一〇	九五	二〇
	三一〇	二六	一一一	一一九	一三	一一一	一一九	一〇九	一一一						

(備考) 開會前日の計算に據れば、蟲數凡と十六萬頭なりしも、岡山縣、三重縣等より其後に到着の出品も少からざつがを以て、實數は十六萬の上にあらしなる可し。

## 第十 昆蟲展覽會の殘務處理

殘務處理となすに方り、極めて困難を感じたるは、蟲種の調査なりしも、こは分擔調査の議に決したれば、今はたら、庶務、會計の二務を剩すのみ。然れど當局者の疲勞甚はだしき際ならしがば、勤もすれば倦怠淫滞を來たし、容易に事務の進捗を見ること能はざるのみならぞ、賞品、紀念品等の製作

大ひに遅れ、爲めに執務上の不便を來たしたる事少なかずむれ。此際、田中會長の絶らず監視するもの微りせば、恐らくは一層遲緩の虞れありしなる可し。而して最とも煩苦なりしは、出品の送還處分にて、殆んど紙筆に盡く難渋ほど多くの障害は續出しき。この種の會を開かんとする者は、本會に鑑みて、述じめ善後の方策を講ずるの要わらん。

茲に特筆すべきは、本會役員諸氏の厚意なり。凡と何れの會も閉鎖後に至れば、また之を問ふ者なきを通例とする。評議員と事務員を兼ねる柿元、林、桑原、大畠、坪井、古井、駒田、土川、山田、田中、長野、重松等の諸氏は、能く同情を寄せて毎に會務の商議に參し、うの三式舉行の時の如きは親しく奔走の労を取り、閉會後と雖も、爲めに盡す所ありき。其他感謝に堪へざるは、川路顧問及び笠井事務委員長が、繁劇の公務を視るの傍はら、終始本會に盡瘁せられし事にて、内外の便宜を與へられしは勿論、數回臨場の上、誠實なる助言を試みられし節も多かり。又花房總裁と田中會長の本會を重視して、有力なる掩護者の地位に立たれし事實は、一齊に確認する所なるが、特に田中會長が昨年末、本會の推選を快諾の後は、私費を投じて岐阜より來往し、或時は設備に就て示教し、或時は諸種の會議に列し、その開會當時は、前後五十餘日間、夙夕會務を統督し、後また數次、此地に過りて殘務の進行を期したるが如きは、常人の得て爲し能はざる所よて、なほ内外よりける功績は、到底備るに列舉すべくもあらず。斯く名と利との念を去り、只題、斯學の振興を欲するの餘り、痛く心

神を勞せられしるも、固よつては翻べくわ途の他に有るべくも覺へおれば、川路顧問の發議により、純金製紀念杯を贈呈し、以て微かに謝意を表明しな。

### 第十一 昆蟲の名稱に關する意見

昆蟲の邦稱を一定して、國としての體面を維持し、及び斯學研究者と一般農家の便益に資すべの必要なるは、既に齊しく衆目の認諾する所、而して今より之を決行せらる所以のものは、幾多の障害甚はだしきは、一種能く數十の方言を有するあらて、久しく紛糾錯雜の裏に埋了せられしに、明治初年以還、斯學の進歩に伴れ、益々邊境社選の弊に陥りしものゝ如し。是に於て乎、之れを括總統一するの議、夙より有志の間に發り、四方これに賛和する者また多しと雖も、其濃霧を拂し亂麻を断つの困難を感じしにや、誰ありて輕易よ手を下るが、遷延數年、遂に今日に至れるなり。斯れば、科學を専攻する者の如されば、初めより邦稱を假名視して、之を口にすらだら厭ひ、學名即は虫名、蟲名則はち學名の惡風を醸成し、毎に自國の言語を擡げて、主はら他國の稱呼よ頼り、尋常の農家に對つてすら、羅匈語を以て應答することあるが、思はざるも亦太甚しからずや。而して其病患の因て来る所を究じれば、凡る二源あるが如し。一は學者の考徵鑑定を輕んずるに歸し、他は命名の方式の定なり。

かならざりし本づく。則ハち學者にして探討搜求を事とし、又命名に則りるノル標準のおりたづんみは、如何に外聞を衝く世なりとも、よも吾を捨て彼の死語のみを弄すなど、假ひ封建割居の餘臭を帶びるとは云々、斯へなぞに稱呼上の分裂を來ざりしや知る可かあつ。遺莫、今や之を聽つても詫なし、たゞそれ宜しく乘すべの機會を窺ふて、斯學者の公正なる商議協定よ嵌つあるのみ。然かも今にあは、其好機の到着せずして、紛々擾々の間に後進を彷徨せしむ、斯學の發展を皆ふや、益し大なり。

偶々昨年、全國昆蟲展覽會の開設ありて、一時同志の視線を此場に集中せしかば、吾が名和昆蟲研究所は、事の成否、自力の輕重、時の早晚を論ぐに暇なく、名稱一定の稿本として、爲に日本昆蟲分科表と發行し、其時論の向背を知るの試金石よ供し。固より急遽の間、採筆印行の業を畢へたれば瑕竇の多かりしは、既に讀者の認識せらるゝ如くにて、且中に收めたる蟲種も、纏かよ二百餘を算ふるに過れぬれば、命名の標準は故らに省略し。然るに今回本書を編輯するに及び、この積弊を革ため、紛塵を清めんが爲よは、復た容易よ得難きの機會ありと思量せしを以て、遂に次に列舉するが如き規矩を編制して、私かに名稱の訂正を實行し。蓋し名稱一定の必要は、今や近く自曉の間に通り來り、得て左右を顧慮するに暇なかりしが故なり。

(1) 昆蟲の名稱は、成虫に就いて之を命す。但若に從ひて、其中に幼蟲名を加ぶるゝを妨げず。(マサカヤノシヤクトリヘナ)

## 規則

- (1) 昆蟲の名稱は、現在本邦各地に普通のものとして用いられる。(カタニの虫)
- (2) 日本の蟲は、多く用いられる、又は専門のものと、それが異なる。(アシナガの虫)
- (3) 俗名の蟲は、その特有の記號に上れるものと、それを定す。(アシナガの虫)
- (4) 俗名の蟲は、出でて都會に行はるゝのと、それを定す。(アシナガの虫)
- (5) 俗名は、出でて都會に行はるゝのと、それを定す。(東京のアシナガの虫)
- (6) 古名と死名とは、感興会のものを採用す。(カナカナヤマリコロウセイシキヤマリ)
- (7) 約名と略名とは、記載の上に採用せよ。(ムツウの約名トホカノアドリベナの略名カナリバサウカノアドリ)
- (8) 正名は、假名遣法に據りて記載す。但語體には發音直翻法を用ひよ。(アキハナラシシカノアドリベナシカノアドリベナ)
- (9) 漢名は便宜上、科屬名に適用し、其他は釋義上のやうな用ひか。〔新種カタニスコナシカハハニテ説明書を付す。〕
- (10) 漢名は雅俗を問はず。但文字難解で不適なる時は、註釈者にて改正を加へ。(説明に表題を添く、説明が繁雑な時は花譜にて改め)
- (11) 學名は普通慣用のものと取りて、之を正名と併記す。但其名は上邊に通用の法に準じ。(Oxya velox, Fabr.の虫)
- (12) 漢字を正せらる科屬の普通慣用にて、學名を後置する。漢字を説明しない。〔短角蟹、水蟹の虫〕
- (13) 漢名は、其別種異名を、各別に分用するを妨げず。(蜘蛛の別名惑蠅を以て勿れハタクモの虫)
- (14) 品位によって、名稱に異同を来たしたる昆蟲には、各種を捨て新種を含む。(コロロヤシヤコヤマリの古今相反するヤシヤマリ)
- (15) 茶皮に擬する蟲類にはカタヘタリナムシの如き。(茶皮に擬する蟲類にはカタヘタリナムシの如き)
- (16) 桃皮に擬する蟲類にはカタヘタリナムシの如き。(桃皮に擬する蟲類にはカタヘタリナムシの如き)
- (17) 桃皮に擬する蟲類にはカタヘタリナムシの如き。(桃皮に擬する蟲類にはカタヘタリナムシの如き)
- (18) 新種には、其昆蟲の特殊點、若くは種属を表明せしむる名前。(カタロモコクモの虫)

(十九) 正名ありと雖も、辨别に宜しくあるものは、他名を以て之に替ふ。(カタロモフヒヤシカタハラモモ)

- (二十) 虫、蝶、大、山等の形狀を、黒、赤等の色彩を表明すべき冠頭間に、成るべく他字を割り、其意義を判明なむこと。(厚チナキリに種を、蝶バッタに形を、大サンガメに形を、山ギヤフに産を、黒ヨリムシに色を、赤ウシアブに色を、頭ハルカシ)
- (二十一) 蟻の説すと雖も、誤り易きものには、断然誤認法を用ゐる。(アヌス、クロオトシニア、アカバトンバウの虫)
- 假りて此規程によつて、釋義を加ひしに、其本體の淡紅なるを形容せしものか、將た桃蟲の蟲なるかを分ち難きモヤバヌ、語句悪くして稱呼に自由あらざるキノカバガ、命名の不正確より一時人を迷はしむるキンギラフ、幼蟲の毛色を指すか、まだは成蟲の翅色を指すか、區別の明かならぬチャノシモハリシヤクトリガ等の蟲名續出し、結局根柢より洗掃するに非れば、其目的を貫通し難き事由を悟り、亦急劇の變動を避くるの得策は、然るととも想ひたれば、成功を他日に譲つて、昆蟲分科表と出品蟲種中、特に稱呼適字の種がならぬとの校訂補正するに止めさ。是れ同一のカムシに歩行蟲と塵芥蟲との兩様を存し、其他の名稱また刪定を悉知する所以なり。

今や、本書の刊行によつて、吾が名和昆蟲研究所は、宿望の一端を事實に遂げ得たるには遠ばざるむの大半は之を他日の考定に俟たる所可也れば、爾後勉めて之が責より任するの微力と致すに怠らざる所可し。便はち昆蟲叢書第十一編に於ては、應用上必須の種類のみなりとも、事實の名稱を留し去り、肯て今日の如く同一色の形容も、或時は紋黄といひ、或時は黃紋といふの過失無からしめんとぞ。而して此希望を達せんとは、前記の標示に據るの他、なほ其大小、肥瘠、斑紋、色彩、擬態、特性等

の位置に關しても、細緻の標準を作り、更に命名の撲範をクロアグ・ノラフ、アカイトンバウなど其名によつて、其種を辨別すべきものと取り。又其色彩の異同に重きを置きて、青と碧との別を立つるは論なく、從來慣用のそれの如く、黄褐色を曲げて赤とひし、黃赤を誤りて紅と呼ぶことをなさず。次には、シンヤンクナハガ、オホマダラキシタハガ等の成語に違ひかれるもの、タヤコバホ、キバチの如く極めて誤り易きものにも、或範圍に於て、多少の修正を加ふるの必要あるに似たり。讀者豫じめ萬を諒察し、將來もし、昆蟲分科表を化して一片の故紙となし、又た出品目錄に異動を生ぜしめて、過半雌黃を施す日からば、即ち此の至難事業を成就するの徵候と知られよ。人或ひは、その暴舉に失するを晒はんも、斯學界の刷新は早晚、脱がること能はずとならば、唯速成斷行に利あるとの事由を認むべく、又北海の土蟹、南島の生蕃と雖とも、各々定まれる昆蟲名を有するも、祖先以來言語の發達を以て誇稱せる本邦に、獨り之れと缺くを想はゞ、此謀圖の強がち無用の業よ屬せあるを知るに足りぬべし。斯くいはゞ、また邦名と學名とを併せ研究するの煩索を唱ふる者なしと限らざるも、學名と接似の語音を操つる歐米諸國すら、各別々自國の蟲名を稱するに、況して東西全く其趣じかなを異にする本邦よ於て、學界共通語外の正名を定むるども、何の不可かあるべく、寧ろその時期の運がうしむるもの。

## 第十一 全國昆蟲展覽會の効果

全國昆蟲展覽會の効果として問題に關しては、種々の觀察を下す者あるが如し、而して主催名和昆蟲研究所は、自から其價値を定むるに、當て左の數語を以てせり。  
〔雜誌「昆蟲世界」第四拾五號及び第四拾八號參看〕

此を以て、解かに學術的眼光を以て、調查研究すべき材料たりと豫想せる出品は、多くは好奇的に觀察せられしもの嫌ひを生じたるも、斯く多數の參觀人中には、新たに斯學に志せる者亦少ならざる可かと思へば、この混亂雜沓の間に、將來好望の種子を播下せしやも未だ洞り知る可らず。是れ蓋し自齒自讐の督辭を弄するにはあらず。世間の事物多ては、その初め一種の好苦より起りて、漸次眞理に近づき、終に之を大成するに到るなりてなり。而して其效果の如きは、今追々に之を知り能ばざるも、恐らくは明治三十六年の後、粲然眼を拭ふに足るゝもの也。此處に胚胎せしならんと、當昆蟲研究所の断じて豫言するに憚からざる所なり。且々然るを、眼光を斯學の局部に注ぐ者においては、動かすれば、即ちアヌリ、蠍蟲のふぞロヒー、また實て其他を知らむかの、如く、分類標本、製標本標本、數百種標本の並間に在りて、直截に斯學を發達せしむる機關たるを悟らざるなり。之を以て、その者蟲類に從事する者の多くは、根本的の驅除を探らすして、一時小農的の姑息法に安んじ、猶ほ其體の頭痛を治するに、先づ内服藥を與ふを厭ふて、麻酔の即効紙を好み、又鐵槍の架設を欲するも、敢て地下に機脚を堅造するを嫌ふに疑はらず。且々加之、本會に對して、最もも言質を重んずべき責任者たる小貢審査長は、公衆の前で發言すべし。

〔本會授獎品出品目錄附錄〕

全國昆蟲展覽會出品目錄附錄

第十一 全國昆蟲展覽會の効果

開設品出を獎勵の結果として、其人員は百四十三名に止れりと雖も、昆蟲展覽會の始元としては、亦盛なりと謂ふべし。特に昆蟲の分布を調査するに方り、其利する所、決して過少にあらざるを知るなり。(中略) 今回の出品に對し、固より完全なる能はず、是れ苟り斯學に於てのみ然るにあらず、凡そ創始に屬する百般の事業に免る可からざる通則にして、將來の進歩の上、リ貢ふ時は、反つて頗る有効の餘地を存するとの謂ふべからず。(中略) 今般の通則するに、本會に出席せし所のもの、皆未だ幼稚の域を脱せず雖も、其出品區域の廣漠なる、其種類の夥多なるは、蓋し斯學研究上に裨益する所、偉大なるべしと當せらる。因々

他に、本會の實業裏に、科學實業兩者を融和して、國利民福を圖れるの成績に至りてば、未だ過半に之を知るに出なき。その從來之を觀観せる者を警醒して、昆蟲を國家の關係を惜らしめ、上下の注意を喚起して、斯學研究の必要を曉かしめたる結果、近き將來に、一生面を開くべき事火線となりしは、余が豫断して確ばざる所なり。(中略)

この言明は果して遠は走、岡山縣邑久郡農會が、本會開設の趣旨に激奮して、是歲二月二十日より五日間、邑久郡昆蟲展覽會を開けるを首めどし、十一月とは、其十八日より一週間、之を若手縣和賀郡に開かんとして、本會の趣意書及び「昆蟲世界」の所説を經緯とせる趣意書を發表し、また同月を以て宮城縣志田郡に開設の教育品展覽會とは、同郡昆蟲研究會員の製作に係る、幾多の昆蟲標本と參考品

より加ひたるが、其裝飾用のものと、寄益蟲標本とは、形式と本會の出品に則り、次で岐阜縣下の有

### 日本帝國褒章之記

岐阜縣美濃國木東郡船木村

名 和 靖

資性堅忍夙ニ農學ヲ修メ尋テ動物學ヲ練修シ専ラ力ナ昆蟲學ニ堪シ省除益蟲保護ノ法ヲ究メ之ヲ農業及ビ教育上ニ應用學及スルヲ以テ己シカ任ト爲シ常ニ山野ヲ跋涉シ娘ノ凡ソ八十餘萬頭之ヲ内外國博覽會ニ出陳シ若クハ諸學校各種ノ圖本ニ密附シ或ハ各地ニ巡歷シテ農會其他ノ諸會ニ於テ講演スルコト六百有餘回數々講習會ヲ開キチ多ク生徒ナ教育シ私立化蟲研究所ヲ岐阜市ニ創メア汎ク農庶ナ啓誘シ月刊雜誌及書籍ノ圖本發刊シ殺蟲器益蟲保護器等之ヲ販賣シ若クハ寄蟲標本保存倉庫ヲ改良スル等開示開導甚勇メ裨益ナ農家及教育家ニ與フルコト鮮少ナラズ洵ニ公衆ノ利益ヲ興シ成就著明ナリトス依テ明治二十四年十二月七日勅定ノ戴後褒章ヲ贈ヒ其善行ヲ表彰ス

明治三十四年五月十四日

奉勅

(印)

賞勵局總裁正三位勅一等子爵大給恒(印)

此證ヲ勘査シ第四百二十一號ヲ

以テ褒章簿冊ニ登記ス

賞勵局書記官從四位勅三等横田香苗(印)

賞勵局書記官正六位勅六等藤井善吉(印)

四年の四月十六日に之を開始し、五月十二日に褒賞授與の式を舉げ、同月十五日を以て閉會式を行ない、爰に始めて積年の希望を達する事を得たるあり。この閉會に先だつこと一日、即ち五月十四日附を以て、我が帝國臣民の最大榮譽とする。

勅定の藍綬褒賞は、料らずも、此全國昆蟲展覽會の主催たる、名和昆蟲研究所長名和靖に下賜せられ残務の未だ完了せざる六月廿一日として、謹みて拜受の恩命を辱うしな。顧みれば、所長名和靖は既往二十餘年間、昆蟲を無二の伴侶として、起臥これと親交を訂したるの他、未だ潤滴國家よ答ふるの事業を經營せざるに、一朝誤つて

天聴に入り、展覽會務鞅掌の際に、期せずして此重恩を負荷す、洵とよ恐懼の極みと謂ふべし。たゞ讀者は此を以て、邦受者一人の光榮と速断すべきにあらず、そは際涯無量の聖徳は、均しくまた、同志の身邊よも信ふを認むればなり。則ばら斯學界よは、千古不磨の名譽を享戴し、兼て本會の爲めには、光輝かる無上の紀念を作爲せるゝ同ドければ、本會を協賛せし同志は更に論なく、常に昆蟲學の研究に従ふ者ハ、各々その水分を重んじ、併に與に之が伸暢普及を圖らすして可ならんや。

今や、筆を擱くに臨み、なほ一事の附記すべものより、他あし、主催名和昆蟲研究所々員にして、昆蟲展覽會の事務に操掌せし者の功勞是れなり。讀者も粗ほ知らるゝなるん、本年規則上の役員を述

任して、事務を分掌の後よこそ、全たく其手を下され、其以前に在りては、百般を擧げて、齊しく設備の勞苦よ服し、各々其技能に應ドて事に會務に従がひ、なほ開會後と雖ども、恒よ裏面よりは庶務審査會計事務を幫助し、爲に此會をして後顧の憂ひよからしめさ。然れば、假し身は外部の衝よ當らざるも、其内助の功課に至りては、また多く他よ下らせ、特に閉會後よ於ける奔走盡力と、殘務の整理とは、洵とよ嘉尚すべかりし。依て茲に錄して、永く其姓名を後年に留めんとす。

名和正也　名和政　名和梅吉　名和貴　棚橋昇  
伊藤七郎　福井克雄　森宗太郎　吉田悦三　名和愛吉  
長尾六二　高橋喜男

(以上、明治三十四年十二月下浣脱稿)

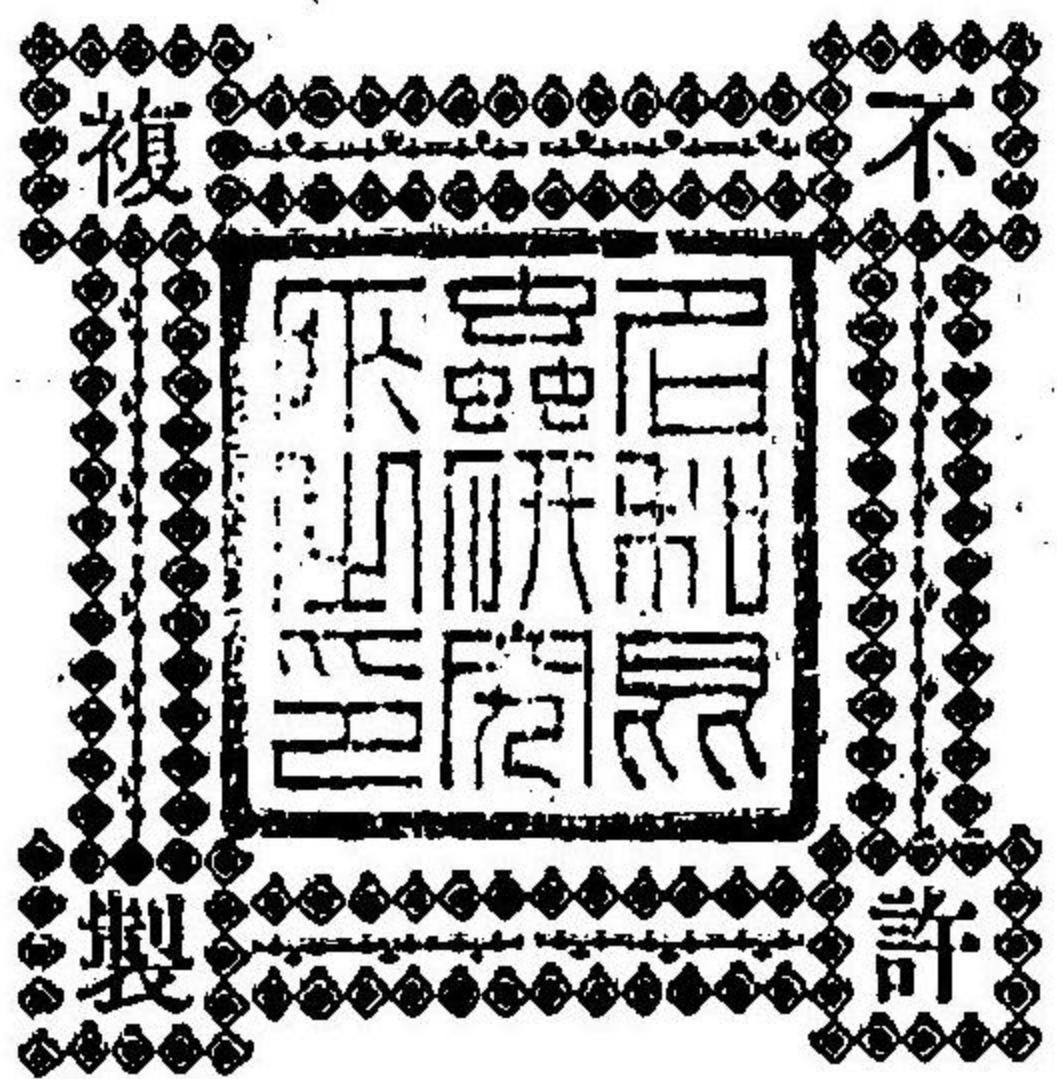
此書は、豫期の如く、昨明治三十四年九月下旬に發行すべりしを、齒類の調査は論なく、其原本の整理を改井し、數月の功苦を積み、將だ學名漢名の記入、標準の設定等にも、思ほる多くの日子を空消し、同十二月下旬を以て、種體裁を成すに至りたれば、それに木づきて更に編を起し、今春始めて印刷に附せるなりけり。今其遲延せる事由の一斑をものせんに、既に調査改井を行つたる原本に就きて正名漢名を讀て人にし、其紹介通りなきの稱呼は、頗る選擇に困難を感せしも、直近の五七種のために、一週限りは採集を中止して、三十餘部の蟲書を洗過し、なほ洋譜書より原文に至るまで、専く探求せしものあれば、精選目録若干科の一種の名稱を考定せんと、終日精勤したるに、何の得る所もなく、失望に失望を重ねし事もあり。又ガムシの意義と其漢名を知らんとして、和漢の醫書博物書の點検に前後三日を要して、わざとに複説の誤りを斷定せし事すらありま。特に正名の假名遣ひは、從來殆ど誤認幾多の嫌ひありしかば、堅々これを十數部の蟲書に照して、正格に入るべきとの、みを選別せし等、人知れぬ苦辛に窮り懊惄を來したこと多かり。今より當時を追憶すれば、寧ろ省直に過ぎたるやの感無きにしからじ。後に物語る所を聽けば、種類の調

書、科属の配合、學名の記入、出品者の分別、またこれと同じ趣きありき、然もありなん。加之、岐阜には、書工彫工の數多ある中に、昆蟲の描寫雕刻に慣れし者さては、各々唯一人あるのみなるに、中による名和先生の計ひにて、舊版二十餘圖に、新版四十餘圖を加へて、往々圓熟すること更めたれば、讀者の幸福は言ふまでも無けれど、これが、大體事業の進行を阻害せし事は著るしく、可憐五十餘日をこの原圖の調製に要し。又印刷所も、漢名の活字なりせば、悉く偏へおとの字では無けれど、有難に大都とは事異りて常用に供せらる異様の横文活字、さては名稱に專用すべき新體假名文字などの多く有るべくもあらねば、此書脱稿の比に、急ぎ京地に打電して、そが新體を託する等。事毎に才前足退の厄に遭はぬは莫大りき。

斯る事由のあるべじとも知らぬ、各地の協約者よりは、月に幾通となり、嚴重の督促をうけし中にし、熱誠冷嘲を加ふるな以て男児の本領を誤解せしにせ、讀書家には有るまじき。古状の文字を羅列して、聊も自己の品格を費損するに心づ、お人すらあります。然れば、舊版より、今春にかけての痛苦は、永く忘られぬ程にて、實に此前後は、心も心ならず。一時は辨賞協約を履行せんかさまで、憤懣の念ひに駆らるゝ日々多かりしかば、彼の溫厚篤實の君子と呼ばはるゝ、大根文學博士が著書百海の出版期を過ぎたる時に「大根先生の食育海」と題せらるる無名の書簡を落手せられし事など、想起しては氣を動まし、所務を視るの傍ら、専心これが完成に廻むる所ありしに、越て此四月に至りて脱稿せしば、此回こそは之悦び勇氣に、國らざりき、異種異形の文字を多く混用せし結果は、痛く印行の速成を妨げ、如何に焦慮すとも、日に続に破頁の竣工に過ぎざらんとば。剩さへ、附録の記事には、展覽會の成立と、其他三四の重要な事件を摘要するに止め、全篇を通じて百六十頁左右とし、これに三葉の脛字口繪を挿入の豫定なりしに、或所友より紀念記事の補足と口繪の増入などを遅られ、謹遂に、に三邊して、新に二葉六種の高貴銅版と、本文約三十頁の増刷を決したれば、翌五月に成就すべからし此書も、斯くて運れに運れしなり。然れど此等障害の何時か消火せて、今や讀者諸君の案下に呈するの光榮を得たるは、最も嬉びしき限りといふ可けれ。終りに、數月間、發刊を遥延せしめたるの罪を懺謝するをもとに、これを寛容せられし厚説をも感謝するに至る。

## 全國昆蟲展覽會出品目錄畢

明治三十五年七月五日印刷  
明治三十五年七月八日發行



\*郵  
料  
金  
八  
錢  
\*  
定價 金八拾五錢

著作者名和靖

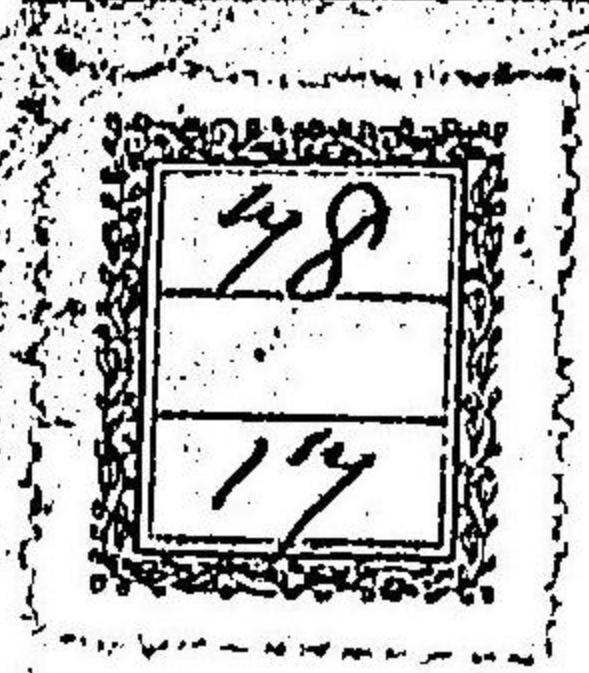
發行者

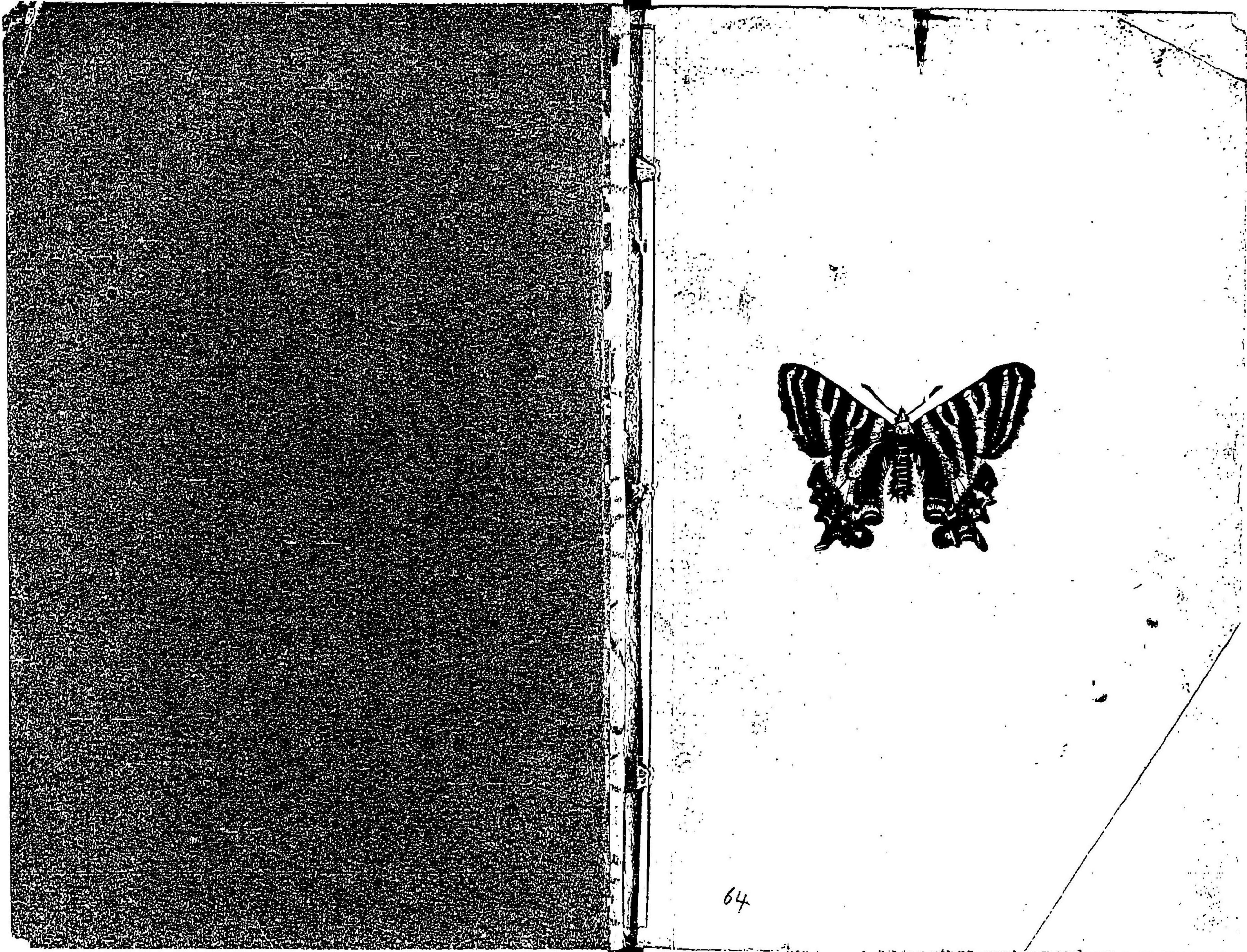
岐阜縣岐阜市今泉(京町)九百三番戸ノ二

印刷所 西濃印刷株式會社

岐阜縣安八郡大垣町字御百五十三番戸

發行所 岐阜市京町 名和昆蟲研究所





64

278

17



057516-000-7

78-17

全国昆虫展览会出品目錄(第一回)

名和昆虫研究所

M35

CAR-0093



